

日本語の基礎

にほんごのきそ



Ribenyu (de) Jichu

凡 例

教科書の編集方針

1. この教科書は、もともと財団法人海外技術者研修協会受入れの研修生のために作成されたものであるが、同時に広く一般の日本語学習を希望する人々のためにも十分役立つように作成されたものである。

この教科書は、始めて日本語を学ぶ人々に対して、日本語の基本文法と語彙の学習を通して、最終的には日常生活に必要な会話を習得させることを目標としている。従って、ひらがな、かたかな及び漢字の指導、又は、日本文の読み書き指導等は原則として含まない。

2. この教科書は、本来、日本人の教師の指導のもとで短期間に集中的に学習し、最大の効果をあげるよう編集されたもので、理論よりも実用性を重んじた。従って、使われた文型及び語彙は、まず基本的であること、使用頻度が高いことの他に、初学者にとって理解しやすいこと、発話しやすいことを重視して選択したものである。従って、日本人の間で使用頻度が高くても、かならずしもこの教科書にとりいれていないものもある。
3. この教科書は、発話文型中心に構成されている。発話文型とは、日常かわされている日本語の会話の様々な表現を、話し手の立場からいくつかの主要な文の型に整理したものである。これらの発話文型を十分な口頭練習を通じて定着させ、学習者の実践的会話を養成するというのが、この教科書の基本的考え方である。

教科書の構成

1. この教科書は、本冊、分冊、文法解説書及び別冊付録の4つに分かれる。

本冊は序、凡例、研修生のみなさんへ、日本語の発音、本課、日本の歌、索引及びチャートからなり、本課は30課で構成される。

分冊は本課の各課毎の新出語彙とその翻訳、本冊の翻訳及び付表からなる。

文法解説書は本冊中の日本語の発音及び本課30課の各課における文法事項についての英文による文法説明である。

別冊付録は本冊の各課における練習問題の模範解答である。

2. 本冊はローマ字版と漢字まじりひらがな版の2種類があり、いずれも翻訳は一切含まない。教師は、教室では主に本冊を用いて、できるだけ媒介語を使わないで授業をすすめることが望ましい。

分冊は、英語、インドネシア語、タイ語、スペイン語、ベルジャ語、アラビヤ語及び韓国語版に分かれる。

3. 各課の文型及び語彙は、学習者の理解力及び記憶力を考慮して選択、配列したもので、すべて必須である。

語彙は合計763語で、原則として各課の文例（文型、会話、例文、練習、問題）中にあらわれたものを中心であるが、その他、特に各文型に関係の深い語彙も付け加えられ

ている。新出語彙は前半の課に比較的多く、後半、動詞の変化が複雑になるにつれて少なくなっている。

4. この教科書を教室で用いると、一課を完全に終わるのに少なくとも3時間はかかる。従って、一日一課ずつ進むものとして、発音課と本課を全部修了するには、最低5週間の期間と、延べ100時間の授業時間が必要となろう。

教科書の使い方

1. 本冊

1) 日本語の発音

本課にはいる前に、1～2時間かけて練習する。

2) 本課

A. 1～27課

各課は6頁で構成され、内容は以下のように分けられる。

㊦文型

その課で学ぶ基本文型を、新出語彙を含まない平叙文で表わしたものである。学習者はここにあげられた例文を構造的に十分理解し、できれば暗記することが望ましい。

㊧会話

その課の文型に日常よく使われる慣用的表現を適宜加えて作成した。実用的で、場面に応じた平易な会話であるから、全文暗記することが前提である。

㊨例文

基本文型を、質問及び答えという対話の形式で表現したものである。学習者は、まず質問に応じてすみやかに答えられるよう練習を重ね、次に平叙文を与えられて、その質問形が即座に言えるように訓練されなければならない。

㊩練習

文型をほとんど反射的に発話できるようにするための口頭文型練習である。授業で用いる時は、学習者は本を閉じて、教師の指示に従って練習しなければならない。教室外でも、テープを通して口頭で練習することが望ましい。練習の主なタイプは次の3つである。

① 代入ドリル

② 変換ドリル

③ 質問ドリル

また、練習はAとBに分かれる。練習Aには基本的な代入ドリルと変換ドリルが、視覚的効果を考えて並べてある。練習Bは代入や変換ドリルのやや複雑なもの、答え方を指定した質問ドリル、及び、代入と質問の混合ドリルが主なものである。

㊪問題

その課の文法事項を確認するための問題と、文型に沿った問答形式の質問である。文法問題については問題をよく読んで正しい答えを書けばよいが、問答形式の質問は、最終的には耳で聞いて理解し、口頭で答えられなければならない。

①復習

24課と26課に、それぞれ助詞と後続句の復習問題がある。

B. 28～30

28課 — 助詞のまとめ

29課 — 後続句のまとめ

30課 — 品詞の変換のまとめ

主な助詞は1～13課までに提示されるので、13課終了後に28課を参照することが望ましい。

主な後続句は13～19課で提示されるので、19課終了後に29課を参照することが望ましい。

30課の内容はほとんど新出事項で、それ以前の課と直接的関連が薄いので、20～27課の間の適当な時間に言及することが望ましい。

3) チャート

チャートは指定されたドリルを行なう時に用いる。

2. 分冊

1) 各課別語彙とその各国語訳

学習者は各課の語彙をすべて、その日のうちに暗記しなければならない。

2) 本冊の各課別文型、会話及び例文の各国語訳

翻訳は理解のための補助手段であって、学習者に翻訳を要求してはならない。ただし、日本語を発話させるための練習に翻訳を利用することはさしつかえない。

3) 付表

① 数字、時の表現、助数詞及び家族の名称

② 動詞の変化表

以上の内容は本冊でも扱われるが、範囲が広く、網羅されていないのでここで整理した。

3. 文法解説書

各課の基本的な文法事項を項目毎に図式を多くとり入れて英文で簡潔な説明を行なったものである。

4. 別冊付録

原則として学習期間中は教師が預かり、学習者はこれを見てはいけない。問答形式の質問の答え方は人によって違ってくるが、ここでは解答者をインドネシアのスラメットと定めて、答えを書いてある。

5. 表記上の注意 —ローマ字版—

1) ローマ字表記は、原則として修正ヘボン式に従っている。長母音は、“i”を除く

て母音の上に“-”をつけた。

e.g. a-ā, u-ū, e-ē, o-ō, ただし, i-ii

- 2) 文の書きはじめ, および固有名詞と言語名の語頭は大文字で書いた。

e.g. Lee-san, Chūgoku, Nagoya, Indonesia-go

- 3) 接頭語, 接尾語, 助数詞等はハイフンでつないだ。

e.g. o-shigoto, Tanaka-san, 25-sai

- 4) 外来語及び国名は, 日本語の発音に従って表記した。

e.g. tape-recorder→tēpu-rekōdā, Mexico→Mekishiko

- 5) 人名は, その国で用いられている慣用的ローマ字表記に従った。

6. その他

- 1) 省略と言い換え

文中, 省略できる語句は[]でくくった。

e.g. Anata wa kenshūsei desu ka. —Hai, [watashi wa] kenshūsei desu.

文中, 別の語句でも言い換えられる場合はその語句を()でくくって, 言い換え可能な部分の次に示した。

e.g. Anata wa dare (donata) desu ka.

- 2) この教科書に出てくる国名及び人名は, ほとんどアジア, アフリカそしてラテンアメリカの発展途上国に限られている。理由は, この教科書がもともと協会が対象とする技術研修生のために作成され, 使用されているからである。

- 3) 教科書の中に頻繁に出てくるセンター (Sentā) という名称は, 海外技術者研修協会の各センター, すなわちアジア文化会館, 横浜研修センター, 関西研修センター, および中部研修センターを指す。それぞれの所在地は目次の前に示されている。

学習生のみなさんへ

1. 文型をくりかえし練習しましょう。

日本語に限らず、新しい言葉を学ぶ際に文法の知識は大切ですが、それにあまりとらわれてはいけません。会話の一番の上達法は、まず日常よく使われている日本語の表現を、一定の文の形として理解し、覚えることです。この教科書では、文法事項や単語が、文型や会話の中にはいって、それらをくりかえし練習することでみなさんの会話力が自然に伸び、身につくように工夫してあります。

2. 正しい発音を聞いてください。

教科書の文字は、かならずしも実際の音を伝えていません。まず、先生やテープの声を聞いて、正しい発音を確かめてから覚えてください。単語であれ、文であれ、聞いて覚えるのが、もっとも早くて、確実な方法です。

3. 授業時間を最大に活用してください。

語学の勉強は教室の中だけに限られませんが、一番有効なのは何ととっても、教室で先生について学ぶことです。この教科書は、100時間で日本語の基礎を能率よく、系統的に勉強できるよう構成されています。各課が新しい内容で、毎日毎日が大切です。ですから、授業中は先生の話に耳を傾け、先生の指示に従って大きな声で練習してください。

4. 復習を怠らないでください。

教室の中だけで全部理解し、覚えることは、到底無理です。また、一度にたくさんの内容を丸暗記しても、すぐ忘れてしまいます。ですから、その日習った事は、クラスが終ってからも、テープなどを聞いて自分で発声しながら、できるだけ長い時間をかけて復習してください。一般的に言って、3時間クラスで勉強すれば、そのあと3時間の復習が必要です。

5. 覚えること、使うことが肝心です。

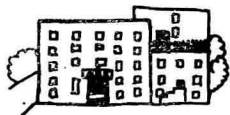
言葉の勉強の基本は、覚えること、そして、使うことです。まず、各課の単語と会話を覚えましょう。そして、覚えた言葉や文を使って、すぐ友だちや一般の日本人に話しかけてください。恥ずかしがっているのは、決して上手になりません。

6. この教科書が終ってから。

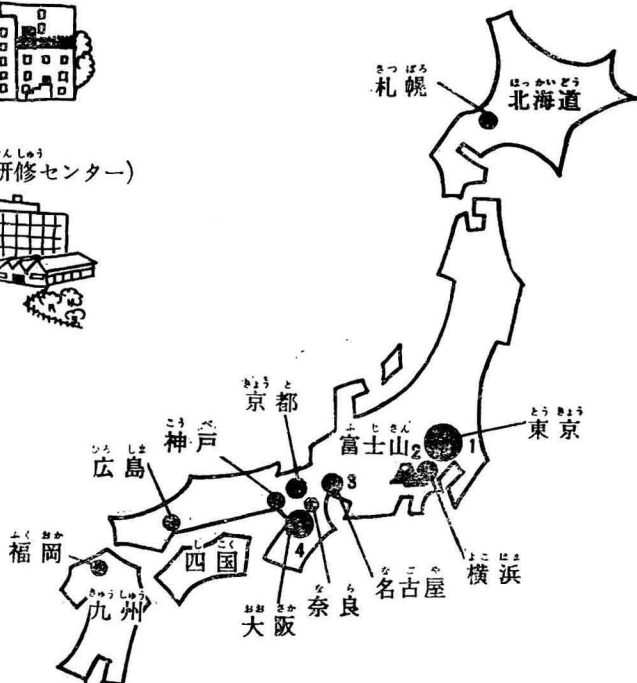
1～5に述べた事を忠実に実行してこの本を終えると、日本語の基本的な表現と、日常生活に必要な基本的語彙を習得したことになります。そして、それらを上手に組み合わせれば、みなさんが話したいことの大半は表現できるはずです。

ただ、最初のころは日本人の話す日本語が聞きとれなかったり、知らない言葉が多すぎたりして困るかもしれません。しかし、根気よく話し、聞き、そして言葉を覚えることを続けてください。そうすれば、かならずわかるようになります。

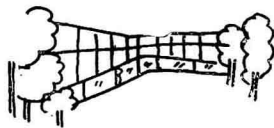
1. ABK(アジア文化会館)
ふん か かい かん



2. YKC(横浜研修センター)
よこはまけんしゅう



3. CKC(中部研修センター)
ちゅうぶけんしゅう



4. KKC(関西研修センター)
かんさいけんしゅう



目 次

日本語の発音

ページ

I	日本語の音節	1
II	教室の言葉	3
III	数字	3
IV	あいさつ	3

第 1 課	4
第 2 課	10
第 3 課	16
第 4 課	22
第 5 課	28
第 6 課	34
第 7 課	40
第 8 課	46
第 9 課	52
第 10 課	58
第 11 課	64
第 12 課	70
第 13 課	76
第 14 課	82
第 15 課	88
第 16 課	94
第 17 課	100

第 18 課	106
第 19 課	112
第 20 課	118
第 21 課	124
第 22 課	130
第 23 課	136
第 24 課	142
第 25 課	148
第 26 課	154
第 27 課	160
第 28 課	166
第 29 課	170
第 30 課	172

にほん うた
日本の歌

さくら、さくら	174
こうじょう つき 荒城の月	175
はまべ うた 浜辺の歌	176
あか 赤とんぼ	177

さく いん 索引	178
----------------------------	-----

チャート	189
------	-----

にほんご はつおん
日本語の発音

I. にほんご おんせつ
日本語の音節

あ	い	う	え	お			
か	き	く	け	こ	きゃ	きゅ	きょ
さ	し	す	せ	そ	しゃ	しゅ	しょ
た	ち	つ	て	と	ちゃ	ちゅ	ちょ
な	に	ぬ	ね	の	にゃ	にゅ	にょ
は	ひ	ふ	へ	ほ	ひゃ	ひゅ	ひょ
ま	み	む	め	も	みゃ	みゅ	みょ
や	(い)	ゆ	(え)	よ			
ら	り	る	れ	ろ	りゃ	りゅ	りょ
わ	(い)	(う)	(え)	を			
ん							
が	ぎ	ぐ	げ	ご	ぎゃ	ぎゅ	ぎょ
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ	じゃ	じゅ	じょ
だ	ぢ	づ	で	ど			
ば	び	ぶ	べ	ぼ	びゃ	びゅ	びょ
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ	ぴゃ	ぴゅ	ぴょ

1. 母音 ぼ いん

あ い う え お

とけい：とうけい， ゆき：ゆうき， おじさん：おじいさん
おばさん：おばあさん， ここ：こうこう， どろ：どろろ

2. 「ん」の はつおん 発音 はつおん (撥音)

おんな， うんどう， あんてい
しんぶん， さんぽ， ぶんめい
さんかい， かんがえます

3. にじゅうし いん 二重子音 そくおん (促音)

おと：おっと， して います：しって います
はっきり， きっぷ， もっと， いっさい

4. し いん 子音 + や， ゆ， よ ようおん (拗音)

ひゃく， きゃく， りょこう， ぎゅうにゅう
きゅうこう， びょうき， さんぎょう， ニューズ

5. 「ざ， ず， ぞ」と「じゃ， じゅ， じょ」

ざっし：じゃま， ズボン：じゅうしょ
ぞうせん：じょうだん， かず：さんじゅう
こうぞう：こうじょう

6. 「す」と「つ」

いす：いつ， かす：かつ， すずき：つづき

II. 教室の言葉

1. 始めましょう。
2. 終わりをしましょう。
3. 休みましょう。
4. わかりますか。
—はい、わかります。
—いいえ、わかりません。
5. 一緒にどうぞ。
6. もう一度「言ってください」。
7. ちょっと待ってください。
8. 「質問に」答えてください。
9. けっこうです。
10. だめです。

III. 数字

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 (一) … いち | 6 (六) … ろく |
| 2 (二) … に | 7 (七) … なな, しち |
| 3 (三) … さん | 8 (八) … はち |
| 4 (四) … し, よん | 9 (九) … く, きゅう |
| 5 (五) … ご | 10 (十) … じゅう |

IV. あいさつ

1. おはようございます。
2. こんにちは。
- 3.こんばんは。
4. おやすみなさい。
5. さようなら。

だい か
第 1 課

ぶん けい
文 型

1. ^{わたし}私は リーです。
2. あなたは タノムさんですか。
3. タノムさんは ^{にほんじん}日本人では ありません。
4. ラオさんも ^{けんしゅうせい}研修生です。

かい わ
会 話

タノム： おはようございます。

^{わたし}私は タイの タノムです。

^{とうきょうきかい}東京機械の ^{けんしゅうせい}研修生です。

どうぞ よろしく。

^{たなか}田 中： どうぞ よろしく。



1. あなたは ^{けんしゅうせい} 研修生ですか。
 —はい、^{わたし} [私は] ^{けんしゅうせい} 研修生です。
 —いいえ、^{わたし} [私は] ^{けんしゅうせい} 研修生では ありません。

2. あなたは タノムさんですか。
 —はい、^{わたし} [私は] タノムです。
 あなたは ^{せんせい} 先生ですか。
 —いいえ、^{わたし} [私は] ^{せんせい} 先生では ありません。
^{けんしゅうせい} 研修生です。

3. あなたは だれ (どなた) ですか。
 —^{わたし} [私は] リーです。

4. タノムさんは ^{にほんじん} 日本人ですか、^{じん} タイ人ですか。
 —[タノムさんは] ^{じん} タイ人です。

5. あなたは ^{じん} インド人ですか。
 —はい、そうです。
 リーさんも ^{じん} インド人ですか。
 —いいえ、[そうでは ありません。] リーさんは
^{ちゅうごくじん} 中国人です。

6. あなたがたは ^{じん} ブラジル人ですか。
 —いいえ、^{わたし} [私たちは] ^{じん} メキシコ人です。

1. 私わたしは

たなか
にほんじん
せんせい
ラオ
インドじん
けんしゅうせい

です。

2. あなたは

たなかさん
きむらさん
リーさん
タノムさん

ですか。

だれ(どなた)

3. 私わたしは

リー
アローラ
せんせい
けんしゅうせい
タイじん
イランじん

では ありません。

4. あなたは

せんせい
インドじん
メキシコじん
ラオさん

ですか、

けんしゅうせい
パキスタンじん
ブラジルじん
アリさん

ですか。

- 5.

わたし
あなた
ラオさん
スラメットさん

も けんしゅうせい 研修生です。

1. 例： 私は 日本人です。

—私は 日本人では ありません。

1) あなたは 先生です。—

2) 私は 研修生です。—

3) あなたは リーさんです。—

4) リーさんは 中国人です。—

5) タノムさんは タイ人です。—

2. 例： タノムさんは 研修生ですか。

—はい、タノムさんは 研修生です。

(スラメットさん、 アリさん、 ラオさん、 アローラさん、 アベベさん)

3. 例： あなたは リーさんですか。

—いいえ、私は リーでは ありません。です。

(木村さん、 コルテスさん、 先生、 日本人、 中国人)

4. 例： ラオさんも 研修生ですか。

—はい、ラオさんも 研修生です。

(アリさん、 アローラさん、 タノムさん、 スラメットさん、 リーさん)

5. 例： タノムさんは インド人ですか。

—いいえ、タノムさんは インド人では ありません。 タイ人です。

(日本人、 マレーシア人、 中国人、 イラン人、 エチオピア人)

6. 例： ラオさんは タイ人ですか、インド人ですか。(インド人)

—ラオさんは インド人です。

1) (研修生、 先生 : 研修生)

2) (インド人、 中国人 : インド人)

3) (先生、 研修生 : 研修生)

7. 例 1: あなたは 研修生ですか。(はい)

—はい、私は 研修生です。

例 2: あなたは 先生ですか。(いいえ)

—いいえ、私は 先生では ありません。

1) 田中さんは 先生ですか。(はい) —

2) あなたは 日本人ですか。(いいえ) —

3) ラオさんは 研修生ですか。(はい) —

4) あなたも 研修生ですか。(はい) —

5) 木村さんも 研修生ですか。(いいえ) —

6) あなたがたは 日本人ですか。(いいえ) —

8. 例 1: あなたは スラメットさんですか。(はい)

—はい、そうです。 スラメットです。

例 2: あなたは ラオさんですか。(いいえ)

—いいえ、そうでは ありません。です。

1) スラメットさんは インドネシア人ですか。(はい) —

2) スラメットさんは 先生ですか。(いいえ) —

3) あなたは リーさんですか。(いいえ) —

4) あなたは 研修生ですか。(はい) —

5) タノムさんは タイ人ですか。(はい) —

6) ラオさんも タイ人ですか。(いいえ) —

9. チャート 1

1) 例: タノムさんは タイ人ですか。

—はい、タイ人です。

2) 例: アベベさんは イラン人ですか。

—いいえ、エチオピア人です。

3) コルテスさんは ブラジル人ですか。—

4) 木村さんは 日本人ですか。—

5) リーさんは 中国人ですか。—

6) ラオさんは パキスタン人ですか。—

7) スラメットさんは インドネシア人ですか。—

8) ガルシアさんは オーストラリア人ですか。—

9) 田中さんは 韓国人ですか。—